

甘楽町広報

昭和43年3月15日 (毎月15日発行) (第100号)【1頁】

町税完納組合に次の割合で報酬金がです。
 納期内完納百分の三年度内完納百分の二年末日までは必ず完納して個人の義務をはたしましょう

3月1日の人口と世帯

世帯数	2,776戸
男	6,795
女	7,110
計	13,905

発行所
 編集印刷所

町場 5番
 甘楽町 役場 44・49
 甘楽郡 企画 株式
 甘甲 課 印刷 会
 楽小 本 金 3
 馬字 電話 (027474) 4
 群大 電線 坂 1部

議会の動き

補正予算など六議案

二月の町議会で可決

二月二十七日に町議会が開かれ、人事院勧告に基づいて行なわれる職員給与引き上げのための条例改正や、昭和四十二年度の一般会計の補正予算など六議案を議決しました。この議会は、ことしはじめて開かれたものです。以下改正された条例の概略をお知らせします。

◇町長・助役・収入役等の諸給与支給条例の一部改正

この条例の一月一日からの給与月額を、それぞれ、次のとおりと改正前です。(カッコ内は町長・九万円(六万五千円)

役職	改正前	改正後
町長	90,000	120,000
助役	70,000	95,000
収入役	60,000	75,000
副町長	55,000	70,000
常任委員長	45,000	60,000
副委員長	40,000	55,000
副議長	35,000	50,000
議長	30,000	45,000
議員	25,000	35,000
その他の職員	10,000	15,000

◇教育長の諸給与支給条例の一部改正

改正による教育長の給与は月額五万八千五百円(旧四万九千五百円)

◇特別職の職員で非常勤の者の諸給与支給条例の一部改正

教育委員や区長、農業委員など十八の特別職の職員で非常勤の者の報酬が、四月からそれぞれ引き上げられました

◇職員給与に関する条例の一部改正

昨年八月にだされた人事院勧告に基づいて、八月から国家公務員の給与が平均七パーセント引き上げられました。地方公務員も国家公務員に準じて引き上げることとなったので、当町でも条例を改正して、昨年八月から引き上げることとなったのです

100号記念号によせて

群馬県総務部広報文書課長 中島喜一

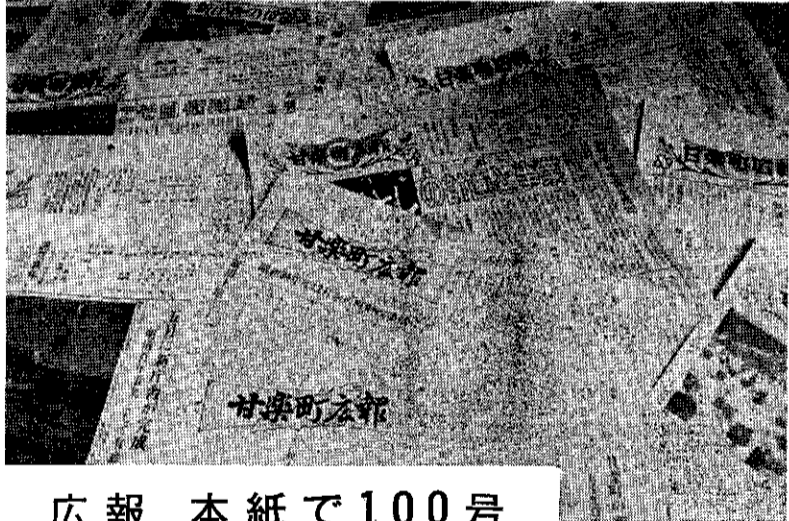
「甘楽町広報」が発刊されたから一〇〇号を迎えました。これは誠に意欲深く、心からお祝い申し上げます。この間、取材、編集、印刷配布などいろいろの面で困難もあつたことと思いますが、これらを克服して内容の充実にとつとめられ、町民皆さんの目となり耳となつて、新しいまちづくりに大きな役割を果してまいりました。まことにすばらしいことだと思います。県では、県内市町村の広報紙コンクールを毎年実施して

42年度予算 4回目の補正

一般計予算の四回目の補正が行なわれ、二百九十九万五千円が追加補正されました。これで、四十二年度の一般会計予算の総計は二百九十九万五千円が歳出補正されました。

歳入	歳出
九千九百九十九万五千円	九千九百九十九万五千円

特別職や職員、給与改訂による補正が、この補正予算に盛り込まれています。他に議員報酬や、農業委員選挙費など総計で二百九十九万五千円が歳出補正されました。



広報、本紙で100号

住民と共に歩む広報を

町長 飯塚勝久

甘楽町広報は、本紙の発行をもちいて一〇〇号を数えましました。昭和三十四年に当町が発足してから満九年を経過しましたが、この間広報は町が歩んだ姿や直面した事業について、主権者である住民に知らせる窓口として活躍してまいりました。

さらに前進する広報に

議長 土屋勝

甘楽町広報が発行以来、本の



堀口雄隆翁死去 地方自治・農村振興に輝く功績のこして

堀口雄隆翁(小川・七十才)が三月二日に死去されました。長年にわたり、農村振興と地方自治に残された輝かしい功績と、その経験によつてつちかわれた豊かな識見と強固な信念、それに加わる誠実温厚な人からは、多くの町民から尊敬をあたつておられただけに、その死去はまことに惜しまれます。

堀口翁は、大正九年、二十三才の若さで多井戸肥料共同組合を創立して組合長に就任されたのをはじめ、四十九年間、わたり、十八に及ぶ役職を歴任され、農村の発展に寄附されました。とくに、昭和七年に組織された多井戸部落栄養改善組合は、福島小学校

から九十九才まで、臨終号大のすべり、一号から九十九号まで、全部を保存している人に「保存協力賞」をさしあげよと、町内広くから該当者を募集しておりましたが、その結果、大字福島、鈴木道夫さん(公務員・33才)がみごと「保存協力賞」に該当しました。鈴木さん宅では、広報が配布されていよいよ保存されていると、喜んで保存協力に力を入れています。これらのご協力をいただき、保存されていると、町民に知らせる窓口として、広報が果たした役割は、まことに大きなものであります。よく広報は「足」で書くといわれますが、この間広報の歩いた距離は数千、数万キロに及ぶ偉大なものであると思ふ。よろしむべし、知らしむべからず」といわれては昔のことです。これからの行政はすべてを住民に知らせ、理解と協力をいっしょに進めなければならない。その意味から、これからも「広報」に課せられた責任は、重大なものがあつて、この一〇〇号発行を機会に、広報がさらに飛躍することを期して、お祝いのことはとさせていただきます。

の栄養給食にふたり、日本で初の学校給食になりました。昭和九年には、学校給食に深い関心をもつた天皇陛下が待従を差遣され、同校の栄養給食状況をご覧され、これを記念した「御使御差遣記念碑」は、いまでも福島小学校校庭の西すみと、多井戸部落に建てられています。

また、地方自治の発展にもつとめ、昭和十二年から十九年、福島町議会議員、同十九年から二十二年まで町助役、同三十三年から三十四年まで町長をつとめられました。

町村合併後の新生甘楽町では、二期、八年間にわたり収入役を歴任され、この間、時の為政者のよき相談相手となつて、円滑なる町政の運営にとつとめられ、住民福祉の増進に多大な寄与をなされた。当町発展の礎を築かれました。それだけに、新庁舎の完成を待たず、死去されたことはいかにも残念なことです。ここに深く哀悼の意をあらわすとともに、つつしんでみなさんにお知らせします。